

# 八千代オイコス かわら版

第44号



令和3年3月1日発行  
NPO 法人八千代オイコス  
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>

## コロナ禍とオイコス活動

### コロナウイルス禍の一年を振りかえって

昨年初め、中国武漢で原因不明の肺炎が広がりつつある、というニュースが小さく報道され、ウイルス禍は、瞬く間に全世界を覆いつくしました。ウイルス禍は、様々な影響を及ぼしましたが、私たちオイコスも屋外での活動が主体とはいえ、計画した市民とのイベントを中止せざるを得ませんでした。

そのような中でも新しい生活様式を意識しながら、ベースとなる花輪川整備は4月を除き毎月実施、花壇整備や、里山保全の観点から農機を使用しての米づくり、ホテル鑑賞会、秋のエコウオーク、ボーイスカウト地域貢献活動への協力などを実施することが出来ました。21年度、コロナ以前になる事は望めませんが、自然環境保護について市民の皆さんと楽しみながら展開出来る事業を計画しております。是非、ご参加下さい。

オイコス事務局 小林





## 秋のエコウォーキング

### ～勝田台周辺の歴史散策と新川の清掃活動～

私は歩くのが好きです。八千代オイコスに入会してからほとんど参加しています。ウォーキングの楽しみは人によって違いがありますが、私はまず健康のための歩き。歩きながらの会話（今年はコロナ禍のため会話は控えめ）、自然（木、草、花、鳥、小動物）・歴史を知る楽しさ等いっぱいあります。

恒例になった八千代オイコスのエコウォーキングが快晴の令和2年10月25日（日）に実施されました。今回は参加者は39名（オイコス11名、一般28名）。勝田台駅9時集合してから八千代中央駅12:30までの約7.3Km。歴史を教えてもらい、自然を感じ、新川沿いではゴミ拾いしながら楽しい1日でした。

勝田台中央公園では巨木クスノキの幹の太さを子どもたちが手をつないで測定（道具がなくても測定できる！）。ポンテン塚（東北地方の出羽三山のお参りの記念碑）で歴史を知る一市内では他でも出羽三山の記念碑がありますね。新川沿いではみんなでゴミ拾い。思っていたよりゴミが少ない(?)。

恒例になったエコウォーキング。参加者の皆さんが楽しそうに散策されていたのでうれしさを感じました。特に子供たちが楽しそうにごみを拾っていたのに感激です。

主催者、参加者のひとりとして幸せを感じた1日でした。

オイコススタッフ 藤田



## コンバインによる稲刈り



今年はコロナ禍で例年の募集家族による稲作りは出来ず、オイコス会員のみでの米作りとなりました。5月に二条植え機で田植えをやり、真夏の暑い時期に2回田んぼに入り手で草取りをしました。

9月15日の稲刈りは米作りのメインイベントで最高の楽しみです。コンバインを田んぼに入れる前の下準備では、雑草取りをしたり、コンバインの折り返す場所は鎌で稲を刈り取ったりして、折り返しエリアを確保しました。その後、佐藤さんが運転するコンバインが田んぼに入り、順調に稲を刈り取っていきます。しかし稲が倒れている所はコンバインの先で刈り取れず、稲が根から抜け、佐藤さんが、コンバインを止めて稲藁を外しているのを見て、田んぼの真ん中のペタンと倒れている所は我々が鎌で刈り取り、束ねてコンバインに入れてやることにしました。私は刻んで溜まった藁をコンバインの下から掻き出す作業をしました。

初めてのコンバインでの稲刈りでしたが、佐藤さんの協力で、3時間余りで稲刈りと脱穀ができ、感謝しています。

オイコススタッフ 新谷







## 故郷の川で……そして花輪川への想い

### 《故郷の川で》

私の生まれ育った昭和21年から昭和50年ごろの田舎の小川は、まるで水族館のように魚種の豊富な清流でした。宮崎県の1級河川“小丸川”は日向灘に面しています。

そこで取れる魚は、当時、流域に住む人々の貴重な「おかず」で、副食の主力は川魚だったように思います。小・中・高校生時代、田植えの終わり頃から秋の期間、小丸川の岸辺で、テナガエビをバケツにいっぱい捕って、朝食や昼の弁当のおかずにしていました。

テナガエビは夜行性ですが、午後7時から10時、11時頃までガス灯と手網で捕獲していました。また、ウナギは、休日前に田んぼの排水溝の近くか、小川の草陰に竹筒を仕掛け、夕食の蒲焼きになりました。竹筒には時々ヘビが入っていました。仕掛けは夕方、帰りにホタルを捕まえて、夜道の灯に使ったこともありました。学校帰りに田んぼの畦を通ると、イボガエル、赤ヘビがたくさんいて通れず、竹で畦を叩きながら帰った時もありました。

### 《オリンピックの頃と今》

あの頃の環境に戻るとしたら、カエル、昆虫の合唱？これは騒音で、不眠症になるに違いないでしょう。57年前のオリンピックでは、私は区間聖火ランナーを務めました。その頃とは田舎の生活も自然環境も大いに変わりました。現在の花輪川には、カエルやヘビは、その頃と比べると種類も数もほとんどいないと言っていいくらいです。思い出の“生き物”が見当たりません。何故でしょうか。農村から農業の担い手である牛、馬、若者がいなくなり、耕運機、トラック、農薬がそれに変わっていきました。田舎も都会も、普及の度合いは違っても同じようでした。

### 《オイコスの活動への想い》

オイコスに入って、川作業を体験しました。やってみると、ミミズ、バッタ、イナゴ、タニシ等が数匹、数個観られました。さすがに都市近郊の田舎は、宮崎県の田舎とは違うなと思いました。が、数年前に田舎へ帰りました。浦島太郎と似た体験をしました。帰って、小丸川へ立ってみました。カエル、ヘビ、テナガエビ、ウナギ等の魚も、牛、馬、鶏等も観られませんでした。子ども達の服装もきれい。乗用車も多い。月の明りで夜道を帰った高校時代等が、走馬灯のように過ぎりました。

オイコスの2年間で、メダカさんに会えました。かつては夕食のおかずになっていたメダカさんが数匹。この地の生き残りでしょうか。誰かが放流したのでしょうか。今からでも数年間世代交代しながら、彼らが生き残れるように何かお手伝いできないでしょうか。

私の川作業の目標は、川の水の流れているところ、階段のある土手のところ2カ所、花壇のある区域等を清掃して、散歩、スケッチや歌、お弁当を食べる方々の憩いの場所になるようお手伝いできればいいなということ。そのような想いで、これからもオイコスの川作業に参加していきたいと思いません。

オイコススタッフ 金田





## 蛍 いました！ ～ノスタルジックな小道の先に～

平林まさ美

8月9日の夕暮れ時、三々五々集まった方々の多くは、お子さん連れのパパやママが中心でした。緑が丘のマンション群の光がちらちら見える夜景、昔ながらの佇まいが残るのどかな田園風景に、遠い昔、夏休みになると決まればあちゃんちに預けられて、ホームシックで「おうちに帰りたい」と、泣いて困らせた記憶が甦ってきました。そんなノスタルジックな小道の先に案内された石神谷津。明るい時間に來たら気持ちのよいところなんだろうと想像しながら、「お目当ての蛍はどこぞ？」と・・・ オイコスの方々も「ちょっといないな」という雰囲気を出されていたので、「今夜は難しいのか」などと思いつつ、奥の田んぼに・・・ いました！ 小さい小さい小さい線香花火のような幻想的な光が、いくつもいくつも飛んでいました。

住んでいる街のほんの少し先に蛍がいてくれた事実にはビックリ。八千代市の自然にビックリ。また、今回このような機会をつくってくださったオイコスの皆様に感謝しつつ、この先も蛍が飛んでいてくれる環境が続くことを願いながら家路につきました。



## オイコスと他団体との連携 ～ヤマトミクリの里づくり協議会の紹介～

オイコスが米作りをしている島田谷津は、谷津の形がほぼ完全に残る里山としては八千代市内で唯一の貴重な場所です。水路には、ヤマトミクリ（抽水植物、千葉県最重要保護 A）が生息しています。そのヤマトミクリをシンボルとして、農村と都市地域の住民が谷津・里山の保全・整備・活用などの活動を通して、支援や交流し、島田・桑納地区の活性化を目指したヤマトミクリの

里づくり協議会を平成23年度に作りました。協議会は、八千代オイコス、里山むつみ隊、八千代市ほたるの里づくり実行委員会、街づくり市民の会、花野会や生物専門家、八千代市等で構成しています。

水循環の視点で見ると、台地（畑）・森・田んぼとつながり、そこには、農作物、人の暮らし、生物の生息環境があります。平成27年に環境省が「生物多様性保全上重要な里地・里山500選」に選定しました。

森は、里山むつみ隊が整備・活用し、近隣の睦小・睦中学校の生徒たちが里山体験等参加して学びの場に提供しています。

谷津は、オイコスが休耕田を援農の形で米づくりをしていて、景観の維持にもつながっています。

協議会活動は、ヤマトミクリの生息調査を8年間継続しています。

また、ヤマトミクリを保護するために、水路に繁茂するオオフサモ

（特定外来種）を年1～2回駆除しています。8年近く駆除作業を続けていますが、根絶できない状況です。谷津の奥は不耕作地で、イノシシの痕跡もあり協議会のメンバーで草刈りをしています。

他には、野鳥観察会、ホタルの調査など行っています。協議会としての活動は緩やかですが、ヤマトミクリの里が維持される活動を継続したいと思います。

協議会事務局 桑波田和子（兼オイコススタッフ）



### 編集後記

今号は、コロナ禍の中、できることを模索しながら万全の感染予防策を取って活動したオイコスの報告です。

こんな時だからこそ、楽しく自然と向き合う活動を止めないで、前を向いて進んでいくオイコスです。（TANA-J）



発行責任者：金室 彰

事務局&問合せ：小林

☎090-1842-8738

mail: info@yachiyo-oikos.jp

